

北原白秋氏の肖像

木下杢太郎

青空文庫

……願ふは極秘、かの奇しき紅の夢……（「邪宗門」）

性慾の如くまつ青な太陽が金色の髪を散して、

異教の寺の晩鐘の呻吟のやうに高らかに、然しきびしく、

河の底へ……底へ……底へ……と沈む時に、

幻想の黒い帆前は

滑つて行く……音もなく……

明るい灰色の硝子の外で、

氏は倚れる窓の後で――。

されば其光の顫音は悲しく、

氏の銅色の額に反射した。――恰ら

青の鶯が落日の櫓の森で鳴くやうに……

雲の彼方の蘆薈花咲く故郷へ、故郷へ、ねえ、故郷へ……。

氏は卓たあぶるの一角から罪色紅つみいれるなゐの〔Curacao〕《きゆうらさお》を取つて

薄玻璃うすばりの高脚杯かうきやくはいに垂たらした……重おもく……緩ゆるかに……。

その懐しい錯心でりいるのやさしい呼吸いきづかひの中に、

赤、紺青、土耳古珠色とるこだまいろ、「黄なつぽい」Sentiment色さんちまんいろ、

そのあまり日向ひなたつぽ過ぎる新しい（やや似合はない）

背広あやの文の音楽に首を埋うづめて

（かの邪宗、その寺の門前に梟首さうすれた怪僧の額ひたひのやうに）

烈はげしい異国趣味えきごくすむに飢うゑ爛ただれた氏の表情は、

新あらたに南洋から帰つた商船の事務員の如く、

ひたすら卓上けしくちびるの罌粟けしの脣を見詰みめて居る。

（かの黒い幻想の帆前ほまへは力なく黙もだしたのに——。）

秋の日曜日あきの雑沓ざつたふを恐るる象、

その如く濁つた瞳、瞳の中の青い花は、

日本にっぽんの——厭あいた、労つかれた

昼の三味、女の島田、音も低い曲節から、
 ああ、せめては中に雑る合惚の進行曲から、

『空にまつ赤な雲の色、玻璃にまつ赤な酒の色』から、
 河に面した厨の葉牡丹の腋臭から、

日を受けたタンク蒸気の引いてゆくCadence《かだんす》から、

はた其かげの痛ましい
その古聿の

とぎれとぎれのStrauss《しゅとらうす》、Gauguin《がうぎやん》の曲調の

うち絶えつ、またも響く柔い薫のうちから、

氏の厚い紫の脣は母の紅い靈魂を求めて居る。

瞳の青い羅曼底は忘れた故郷の香を捜して居る。

日が暮れるまで……

日本の憂鬱な十月の夜の彼岸に

寂しい三味線がちんちんと鳴り出すまで、

なほも善主磨、おおらつしよの祈をつづけながら……

無益^{むやく}にも……

月^{つき}の方^{かた}に青ざめた帆^ほ前^{まへ}の黒い幻想を眺めながら……

青空文庫情報

底本：「書物の王国13 芸術家」国書刊行会

1998（平成10）年10月25日初版第1刷発行

底本の親本：「木下杢太郎全集1」岩波書店

1981（昭和56）年5月

入力：土屋隆

校正：川山隆

2006年12月30日作成

2007年1月28日修正

青空文庫作成ファイル：

このファイルは、インターネットの図書館、青空文庫（<http://www.aozora.gr.jp/>）で作られました。入力、校正、制作にあたったのは、ボランティアの皆さんです。

北原白秋氏の肖像

木下奎太郎

2020年 7月17日 初版

奥 付

発行 青空文庫

URL <http://www.aozora.gr.jp/>

E-Mail info@aozora.gr.jp

作成 青空ヘルパー 赤鬼@BFSU

URL <http://aozora.xisang.top/>

BiliBili <https://space.bilibili.com/10060483>

Special Thanks

青空文庫 威沙

青空文庫を全デバイスで楽しめる青空ヘルパー <http://aohelp.club/>
※この本の作成には文庫本作成ツール『威沙』を使用しています。
<http://tokimi.sylphid.jp/>